

お日待ち 裸参り

紀州を大きく発展させた

南龍大神「頼宣」公しのび…

1/12・13



海水で身を浄め…

海水で身を浄め参拝

恵比須神社へ参拝

▽…30年以上つづく伝統行事「お日待ち」が1月12・13日、有田市の矢櫃地区で行われた。



記念撮影

初代紀州藩主・徳川頼宣公が串本町古座から2組の夫婦を同地区に住ませ漁業を推奨、同地区を永代免租し、保護したことに住民らが感謝し「南龍神社」を建て、恩を末代まで忘れないと続けられている。

13日朝、男たちが冷たい海水で身を清め、神社にお参りする「裸参り」が行われた。大勢のギャラリイが見守る中、頭に刺した、ふんどし姿の男たちが冷たい矢櫃漁港へダイブ。暖冬だが、この日は気温が低く、気合いを入れて冷たい海水に入り湾を横切るように泳いで身を浄め、戒神社と南龍神社に駆け上がり参拝。「裸参り」の伝統は一度途切れたが、8年前に復活。ことし

も有田市に拠点を置く「マツゲン箕島硬式野球部」の選手らの参加やメディアなどでも取り上げられ、お日待ちが活況になっている。

矢櫃地区は、海に面した山の斜面に家々が立ち並び漁師町。車が入れない細い路地が迷路のようになっていて、非日常的な空間が魅力。お試し居住ができる「有田市移住交流拠点施設」くらしちやる矢櫃」を設置するなど、若い世代に人気が広がっている。神さまを賑々しくお祀り、参拝人がふえると、神さんのパワーがアップすると言われる。神さまが喜んで、地元をますます賑やかにしてくれるのでは…。